

令和3年度 学 校 評 価 報 告 書

津市立育生小学校 校長 青木 修

1 学校経営の改革方針

学校教育目標

自ら学び 心豊かな 健康でたくましい子の育成

学校経営の基本方針

- ◎めざす学校像……子どもたちの笑顔あふれる、明るい学校
子どもたちが安心して過ごせる、安全な学校
地域・保護者に信頼される、開かれた学校
- ◎めざす子ども像… 自ら学ぶ子
心豊かで友だちを大切にする子
健康でたくましい体をもつ子
- ◎めざす教職員像… 子どもとともに学び、高め合う教職員
児童・保護者・地域から信頼される教職員
組織の一員としての自覚を持ち、チームで協働して課題解決に努める
教職員

<重点目標>

- (1) 授業改善を通して基礎学力の定着、自主的学習者の育成
- (2) 自分も仲間も大切にする教育の推進
- (3) 基本的な生活習慣・家庭学習習慣の確立と積極的な生徒指導の推進
- (4) 安全教育の充実と危機管理の徹底
- (5) 教職員が働きやすい環境の整備
- (6) 学校運営協議会を活用した地域とともにある学校づくりの推進

<具体的行動計画>

- ① 学習規律を徹底し、学習習慣を身につけさせる。算数科では、習熟度別少人数やT・T指導を実施する。他教科でも、T・T指導を有効活用する。高学年では一部教科担任制を導入する。
- ② 児童が「わかる喜び、できる楽しさ」を感じられる授業づくりを進め、授業改善を通して基礎学力の定着、自主的学習者の育成を図る。また、生きていく上で大切な力となる「自分の思いを言葉で伝える」活動の研究を進める。
- ③ 様々な人との出会いをとおして、互いを尊重し合い、自らの感情を適切に表現するなどのよりよい人間関係を築く力をつける。また、さまざまな人権課題について正しい理解と認識を持ち、自分も仲間も大切にする人権教育・道徳教育を進める。
- ④ 児童理解を進め、絆づくりを進められる機会や場の設定を図る。自己存在感や自己有用感を高め、自己決定の機会や場を設定し、自ら決めたことを行動する力（自己指導能力）を育成する。そのために、異年齢集団を活かした活動を意識的に設定する。また、児童と向き合う時間を大切にし、スクールカウンセラーと連携しながら教育相談を進める。
- ⑤ 「育つ子憲章」を軸にして、保護者・地域と連携し、基本的な生活習慣の確立を図る。また、家庭学習の定着・充実に向けた取組を推進するために「家庭学習のススメ」を発行し、学習習慣の確立を進める。

- ⑥ 特別支援教育の推進のために、教員が児童一人ひとりの違いを理解し、多様な教育的ニーズに対応できるよう、指導力の向上をめざす。そのために、校内支援委員会を定期的に開催し、個に応じた指導体制の整備と情報の共有の充実を図る。
- ⑦ 危機管理マニュアルや地域安全マップを基にした安全対策指導や避難訓練を実施する。
- ⑧ 教職員の総勤務時間の縮減の取組として、一人1台パソコンを有効活用し、会議時間の短縮を図る。また、研修日を定時退校日として設定し定時退校率80%以上、月間45時間超の時間外労働者数前年度比半減、一人当たりの年間休暇取得日数前年度比2日増をめざす。
- ⑨ 学校運営協議会を発足し、保護者・地域住民等が学校運営や教育活動に参画する仕組みを作り、子どもたちの学びや体験の充実を図る。

2 学校自己評価、及び学校関係者評価の結果

○ 学校自己評価について

- ① 「ちどりタイム」に漢字や計算の反復練習をすることで、基礎学力の定着を図った。学年末のまとめのテスト(漢字)では、5つの学年で目標の平均点80点を達成した。児童アンケートの「学習内容が十分理解できた。」は93%であった。3年生以上の算数科では、基礎学力の定着を図り、課題を正しく読み取る力や解決に向けての筋道を数学的用語を使って最後まで説明できる力をつけることを目的として、今年度も習熟度別少人数指導を行った。少人数指導の授業アンケートでは、「算数の勉強は大切だ」の項目で100%を達成した学年もあった。高学年での教科担任制では、時間に余裕が生まれ、児童のニーズに合わせて教材研究に取り組めるようになった。
- ② 「わかる喜び、できる楽しさ」を感じられる授業づくりをテーマに授業改善を進め、研究授業を実施することができた。しかし、児童アンケートの学習の項目「学習に興味・関心を持つことができた。」は前年度比-2%となった。感染症対策の影響もあり、ペア学習やグループでの話し合い学習を思うようにできなかった影響もあるように感じる。また、読書活動への関心を高められるように読書週間には今年度も工夫をして「図書館まつり」を実施した。1~4年には毎週1回、5~6年には毎月1回程度、朝の時間にボランティアによる読み聞かせを予定していたが、感染症対策のため予定通りには実施することができなかった。
- ③ 感染症対策を徹底しながらも、地域の方や様々な活動をしている方々との出会いを通して、自らの感情を適切に表現する方法やより良い人間関係の構築について考えさせることができた。「仲良く協力して過ごせた」や「がまん強くなった」は、ともに93%を超える結果となった。さまざまな人権課題に対しては、担当者からの課題の提示を受けて、各学年の発達段階に応じて全校体制で取り組むことができた。中学校区で行われた「子ども人権フォーラム」には、6年生の代表が学級で人権について話し合った結果を持って参加した。
- ④ 職員会議や生徒指導部会で、生指案件については情報交換を密にし、全校で組織的に取り組む態勢を強化させた。トラブルが発見された時点で管理職や担当に報告のうえ、速やかな対応をとることができた。あいさつ運動は、PTA、地域の「育っ子応援隊さわやかコール隊」、児童会が協力をし、1週間ずつ年5回実施予定であったが、後半は感染症対策のため子どもたちは参加できなかった。児童アンケートの「人の気持ちや立場が分かるようになった」は90%、「学校が楽しかった」は今年度も95%を越えた。
- ⑤ 生活委員会では、校内の実態を話し合ったうえで、各月の生活目標を「育っ子憲章」と関連させて設定している。また、「育生版 学習のススメ」を保護者に配付し、具体的な自主学習の方法を提示して家庭学習の定着を図った。今年度見直しを行い、来年度は改訂版を配付予定である。保護者アンケートの「学校と家庭・地域が連携して、学校教育を推進している」の項目は、肯定的評価が93%となった。しかし、たよりやホームページ等で教育方針や子どもたちの様子を発信することはまだ不十分であった。今後は津市 e-Learning ポータルも有効に活用していき

い。教職員が毎月1回、危険箇所等がないか安全点検を行い、危険箇所への早期対応を心がけている。コロナ禍の状況の中、対策をとりながら、いろいろな状況を想定した避難訓練を実施することができた。今年度も引き渡し訓練を行うことができなかったが、来年度こそは実施したい。

- ⑥ 校内支援委員会や特別支援教育部会を定期的に開催して、個に応じた支援の在り方を検討し、効果的な学習支援を行うことができた。また、支援が必要な児童全員の個別の支援計画を作成し、全職員で共有することで、共通認識のもとで個に応じた支援を進めることができている。日本語教育が必要な児童へのひらがな、漢字等の学習を進めるとともに、年2回、日本語能力判定会議を行い、日本語の修得状況を確認している。
- ⑦ スクールカウンセラーや学級支援サポーターと連携して、児童や保護者の多種多様な心の悩みに対応できる教育相談体制の充実を図った。スクールカウンセラーだより等を発行して周知しているが、橋南中学校区の小中学校で連携して、さらなる有効活用を推進していく。
- ⑧ 会議の時間を短縮するため、提案資料を事前に個人用パソコンで確認できるようにしたり、協議事項を絞った提案を行ったりする取組を進めた。定時退校日にはその都度声掛けを行った。しかし、会議での提案内容が担当個人からのものとなってしまい、協議に時間がかかってしまったり、勤務時間外でなければできない保護者対応等もあつたりして、今年度も目標の達成には遠い。教職員のさらなる意識改革とともに、保護者や地域にも理解を求めていく必要がある。
- ⑨ 学校運営協議会の発足と同時に地域学校協働本部を立ち上げ、保護者や地域の方を巻き込んでの地域学校協働活動をスタートすることができた。感染症対策を徹底しながらではあるが活動の範囲を広げていきたい。

○学校関係者評価（学校運営協議会にて）

日時 第1回：令和3年 4月 2日（金）

第2回：令和3年10月28日（木）

第3回：書面による開催

出席者 第1回 学校運営協議会委員8名

第2回 学校運営協議会委員5名

育生小 校長、教頭、教務、研修、生指、養護

内容 第1回

○ 学校から

学校経営方針について 校内研修体制について 生徒指導体制について

学校自己評価について 学校行事について

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

○ 委員より（質問）

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

第2回

○ 学校から

令和3年度の教育活動について 令和4年度の学校行事について

地域学校協働活動について 令和4年度の学校経営方針について

○ 委員より

学校生活に適應できない子、生活困窮に苦しむ子への対応は

SSWの利用について

地域・保護者への情報公開・HPの活用を！

子どもの体力は

第3回

- 令和3年度の学校自己評価結果、和4年度の学校経営方針等についての承認
- 学校関係者評価アンケートの回答 他

※ 学校関係者評価結果については、児童アンケート・保護者アンケートの結果とともに、学校だより等にて公表。

3 総括評価

- 児童が「わかる喜び、できる楽しさを感じられる授業づくり」をめざして授業力の向上を図り、多くの児童が学習内容に興味・関心を持つことができるようにはなってきた。しかしながら、全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果に見られるように、全体的な学力の向上には至っていない。来年度も、『「わかる喜び」「できる楽しさ」を感じられる授業づくり～自分の思いを言葉で伝える～』をテーマに、さらなる学力の向上をめざして授業改善の徹底を図る。
- 育っ子憲章を軸に、全職員が共通認識のもとで「基本的生活習慣の確立」「学習規律の確立」に取り組んでいる。しかし、特に低学年ではまだまだ課題は多い。担任を中心とした家庭訪問等の迅速な対応や学年部・生徒指導委員会等での組織的対応をさらに推進していく必要がある。
- 学校運営協議会の発足と同時に地域学校協働本部を立ち上げ、保護者や地域の方を巻き込んでの地域学校協働活動をスタートすることができた。「地域とともにある学校づくり」をさらに推進するため、保護者や地域の方の声も取り入れた地域学校協働活動に取り組む。

4 学校評価に係る資料等

児童アンケート	2学期末（肯定的意見）
学力1 学習内容が十分理解できた。	93%
2 学習に興味・関心をもつことができた。	87%
3 授業の約束を守り、人の意見を聞き、 考えを確かめることができた。	90%
4 自分の意見を言うことができた。	77%
5 グループで話し合うことができた。	92%
生活1 仲良く協力して過ごせた。	93%
2 がまん強くなった。	93%
3 人の気持ちや立場がわかるようになった。	90%
4 学校や身のまわりを美しくしようとした。	87%
5 約束やきまりが守れた。	90%
健康1 はっきりと 返事ができた	84%
2 安全に気をつけて けがをしないようにした。	87%
3 外で元気よく遊ぶことができた。	87%
4 好き嫌いなく食べることができた。	79%
5 学校が楽しかった。	95%
保護者アンケート	
1 学校は、教育目標・方針等をわかりやすく伝えている	89%
2 学校は、学校の教育活動の様子を積極的に公開、および情報発信している	89%
3 学校は、子どもたちに確かな学力を身につけさせるための努力や工夫をしている	89%
4 学校は、子どもの思いを理解し、 一人ひとりの人権を大切にする姿勢で指導に当たっている	92%
5 学校は、子どもたちが健康で安全な学校生活が送れるように努めている	96%
6 学校と家庭・地域が連携して、地域の子どもの育て、学校教育を推進している	93%